

平成 28 年度 日本小児耳鼻咽喉科学会 第 2 回理事会 議事録

平成 29 年 2 月 2 日 (木) 16:00-18:00

於：京王プラザホテル本館 43 階「スバル」

出席者：飯野（理事長）、小川、小林、阪本、鈴木、内藤、中川、増田、益田、峯田、守本（理事）、松谷（監事）、市村、川城、田中（顧問）、春名（次期会長）、有本、香山、新鍋、深美（幹事）

I. 飯野ゆき子理事長挨拶

本理事会は出席者で定足数を満たしていることが報告された。議事録署名人に阪本理事と鈴木理事が指名された。

II. 協議事項

1. 平成 28 年度第 1 回理事会議事録確認

平成 28 年 6 月 29 日に行われた平成 28 年度第 1 回理事会の議事録の確認と承認がなされた。

2. 学会事務局移転について

学会事務局の移転先について（益田理事）

アドホック委員会を作り、小宮山印刷、中西印刷、日本印刷の 3 社でプレゼンテーションを行い検討した結果、名簿管理や全ての事務局業務を委託できる先として中西印刷が最適であるという結論に達した。業務は事務局業務、学会誌発行、ホームページ管理の 3 本立てになる。中西印刷の実績については日耳鼻関連学会の事務局業務を他にも複数委託されており、仕事内容は迅速かつ確実である。予算面からみても現時点では会費の値上げはせずに収まる見込みであり、中西印刷が示した必要経費も他学会との比較でも妥当である。冊子体に関してはあった方が若い人の励みにもなることや、読む機会も増えると思われることより、当面は残していくことになった。

平成 29 年 9 月 30 日まで小宮山印刷と業務委託の契約があるため、10 月 1 日から中西印刷に事務局を移転することになった。また現在ホームページを管理している砂庭興行との契約も解約する必要がある。学会事務局を中西印刷に移転すること、冊子体を残すことが承認された。

3. 理事監事改選について（松谷監事）

平成 29 年度は改選の年にあたり、平成 28 年 10 月 5 日に選挙管理委員会を発足した。委員長には松谷監事、委員には有本幹事、香山幹事、新鍋幹事が任命され、メール

審議で承認された。改選で理事 18 名前後、監事 2 名を決定する。会則にある役員の選出についての規定に則り、3 月上旬までに役員立候補届を発送し、立候補希望者は 4 月 1～10 日（消印有効）までに立候補届を選挙管理委員会まで郵送し、4 月 23 日頃に選挙管理委員が集合し開封、5 月 10 日頃までに立候補者名簿を作成し全評議員に発送の予定である。立候補者が定員内であれば例年通り信任投票無しで決定とし、定員を越えている場合には 6 月 1 日の評議員会にて投票を行う。以上承認された。

4. 学会誌役員所属記載の統一について（鈴木理事）

役員の所属機関の記載を略称で統一する旨が提案された。表記が難しくなり誤りを生じやすくスペースの問題もあるので、大学に関しては日本耳鼻咽喉科学会で使用している名称で統一する。耳鼻咽喉科以外の科や病院関連はフルネームで記載する。ホームページも同様に統一していくことが承認された。ただし、演題発表や論文は今ままで通りの正式な記載にする。

5. その他

メール審議を 2 回施行したことについて報告があった。

1 回目は小児外科系関連学会協議会の法人化について、および選挙管理委員会の立ち上げについて審議を行い承認された。

2 回目はメールアドレスの確認が進んだことから、お知らせを迅速に配信するためにメールマガジンの運用を開始することについて審議を行い承認された。

III 報告事項

1. メールマガジン運用開始（益田理事）

以下のメールマガジンを配信した。

第 1 号 次期学会のお知らせについて

第 2 号 演題募集延長について であった。

運用については、概ね順調で有ることが報告された。文字化けをすることがあるという指摘があるが、最近 3 年以内に購入した PC であれば、文字化けはない。確認のために会員番号を同時にお知らせしているが、現在までのところ誤っている等の連絡はないことも報告があった。

現在は、益田理事がメールマガジンを作成しているが、事務局移転後は中西印刷の作成、配信となる。

2. 「小児耳鼻咽喉科」刊行の進行状況について（飯野理事長）

平成 29 年 6 月 1 日の発行を目指している。2 月初旬には著者校正が開始され、その後「小児耳鼻咽喉科」編集委員による原稿のチェックを行う予定である。締め切りか

ら約半年たっているが未だ原稿を提出して頂けていない先生も数名おられ、回収に努めていく。

3. 会員名簿作成の進捗状況（益田理事）

1) 名簿調査について

昨年の評議員会で承認を頂き、3回に渡って名簿の確認を行うお願いを郵送、メールで名簿調査を施行した。総計1243名の方のデータを取り込み860名から回答を頂いた。今回の調査で辞めるといふ方が20数名あった。7割程度の会員から確認とれたので今回の調査をもって終了とし、中西印刷へ名簿を渡したいと考えている。

平成29年10月1日からはホームページ上で自分の名簿内容を確認し、修正できるようなシステムを構築する予定である。第3号の学会誌発送時にメールアドレスとパスワードを入れるようにしたいと考えていることなどが報告された。

2) 未入会の演題発表者や共同演者への催促について

昨年、徳島で開催された学会では3割は会員にならないまま発表者もしくは共同演者となっていた。入会を促したところ、2名は拒否し演題取り下げとなった。発表者が会員でない場合、名簿と照らし合わせ、事務局から催促し反応があることを期待する。発表者には2度催促をし、共同演者が会員でない場合には、発表者に連絡し声かけをしてもらうということになった。

4. その他

① OTOLAM™の保険収載について（峯田理事）

OTOLAM™による鼓膜切開の保険収載に向けて、日耳鼻へ要望書を提出するためのアンケート調査を施行した。OTOLAM™は本邦では280台が耳鼻科に販売されており、その施設にアンケートをお願いし、134通の回答を得た。今後解析をして小児耳鼻咽喉科学会で報告し要望書を作成する予定である。

②関連する国際学会について（飯野理事長）

2017年6月30日～7月2日にアジア小児耳鼻国際学会（APOG ; Asian Pediatric Otorhinolaryngology Group）が北京で開催される。これまでは台湾やタイ、マレーシア等が集まり、2年に1度開催され、4年に1度のアジア・オセアニア学会がある場合には同時期に共同で開催されていた。台北で開催された前回から、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランドが加わり、全アジア・オセアニアの会になっている。前回は、飯野理事長、中川理事がシンポジストとして出席した。日本からこのAPOGと来年ストックホルムで開かれるESPOに出席して頂ける先生方の推薦を小川理事に依頼したい。

③新評議員の推薦について（飯野理事長）

以下の2名が新評議員として推薦され承認された。

石川浩太郎先生（国立リハビリテーションセンター耳鼻咽喉科）

朝子 幹也先生（関西医大総合医療センター耳鼻咽喉科）

また小児・こども病院系列も医師の入れ替わりがあるので確認し依頼していく。

④その他

a.演題募集の締め切り延長について（田中顧問）

演題募集延長は会長にも負担になり慣例になると期日に間に合わせなくなるので、最初から余裕をもった日程で設定し延長しないというのはどうか、とのご意見をいただきました。

b.名簿調査についてご意見（市村顧問）

市村顧問より、名簿調査で確認できたのは会員の7割に加え、評議員の先生にリストをみて頂き情報を得れば、あと1割程度情報が追加できるのではないかとのご意見をいただきました。これに対し益田理事より、個人情報保護が厳しくなり、名簿情報を評議員にお渡しすることは難しいのではないかと回答があった。回答が無い会員の中には会費も支払い、学会誌も送付先で誤りなく届いているケースもある。一昨年に3回、昨年に3回調査を施行しており、これ以上の遂行は困難との判断になった。

c. 第12回学会総会について（獨協医大 春名眞一会長）

平成29年6月2～3日に宇都宮の栃木県総合文化センターにて開催予定である。前日に理事会、評議員会等を予定している。インターナショナルセッションの演者として韓国と台湾から各1名招待している。学会テーマは上下気道を中心としている。昨年のようにスイツセミナーや領域講習、共通講習（医療安全）も予定している。深美年次幹事より抄録集の所属記載についての確認があり、科名は簡略化し、所属機関については正式名称で記載することとなった。

理事長：飯野ゆき子

庶務担当：守本倫子

阪本浩一

幹事：有本友季子

新鍋 晶浩

（文責）香山智佳子